

薩藩名勝志

鹿児島郡

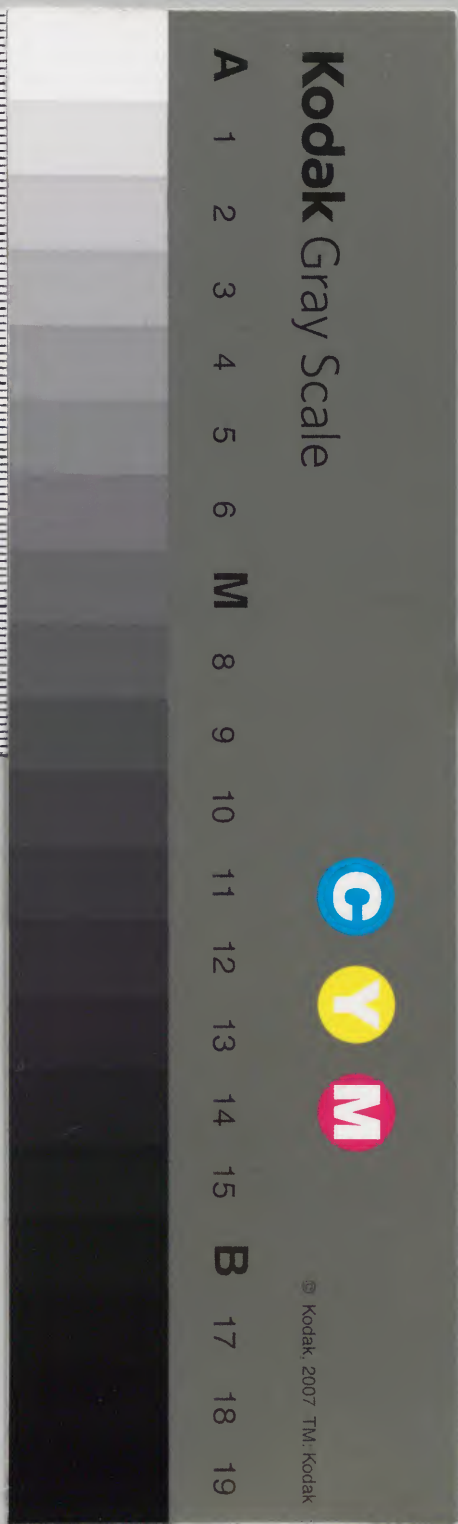
二

和書門	
三六五七二	類
二一	函
八	架
一〇	冊

和書	
三六五七二	類
一〇	冊
一七六	函
一三	架

内閣文庫	
番號	和 36572
冊數	10 (2)
函號	176 · 117

地六九



南
99

薩藩名勝志卷之二目錄

鹿兒島郡

鹿兒島

吉野

吉野

吉野

吉野

吉野

吉野

吉野八幡宮

吉野

吉野

吉野

吉野

吉野

薩藩名勝志卷之二 鹿兒島郡

薩藩名勝志卷之二

薩藩名勝志卷之二目錄



鹿兒島郡

稻荷神社

若宮

寶相院

吉祥院

聖堂

神農堂

南林寺

古木の推

宗慶寺

若宮八幡宮

南泉院

觀樹院

ノ桓石

演武館

明時館

源舜庵

大門口辨天社

山之口地藏堂

能學寺

八幡宮

一條宮

牛落

唐渚

野本原

大田大明神

藥王寺

福永門八景

船魂祠

正建寺

松見崎

青屋松原

紫原

壽國寺

青木の杜

笑岳寺

了性寺

山王神社

谷峰城跡

鼻取地藏

萩原天神

大德寺

上山寺

尾畔

隆盛院

岩崎陣跡

宇治瀨神社

伊敷之墨

西田寺

諏方神社

柿本寺

久富貴宮社

新照院觀音

近衛櫻

原羅陣跡

聖之宮

四郎ヶ坂

妙谷寺

年之宮

春日神社

天満宮

不動堂

桂庵和尚墓

比志島城趾

高城城趾

平城趾

小山田瀑布

安養寺

松尾城趾

地頭假屋

正八幡宮

寶勝院

津友寺

興化寺

稻荷神社

府城護摩所鎮座

例祭十月朔日

俗に戦死稻荷のい

ふ松齡公朝鮮の役慶長三年十月朔日明兵二十萬公の

新寨城に押寄し時白狐赤狐東門より出て敵軍に走入

赤狐半弓に中に死を是と葬すく稻荷の宗の祭られ慈

眼公寛永十四年丁丑八月佐竹蓮光院義真に命して是

と勸請し給ふ本社隅州怡佐平山城中高尾城にあり護

摩所を立野寶珠院の在し地にいぬ

若宮八幡宮

稻荷同所に鎮座

例祭九月十九日

本社鎌倉鶴ヶ岡

八幡宮初の府下外形の下今の若宮鎮座の所にありし

城稻荷社勸請の時同く佐竹義真に命して遷さしむ義真

祭祀と勤む

若宮 府城南五町餘有島よ鎮座勸請年紀詳ふら次本社
鶴ヶ岡八幡例祭九月九日若宮の前よ池あり此所往古
船着の湊ふて俊寛僧都硫磺島よ流さまじや此乘船の
所といひ傳ふ池の涯よ柳あり世よ俊寛柳やと傳り安
永中老樹枯て裁継せしに寛政五年癸丑八月廿五日市
中大火焼てまよ枯せり若宮の邊と今よ有島といひ王
の湊ともいふやい傳りゆへある名よ今其由來傳ハ
ら次

大雄山佛日寺南泉院 府城の坤よあり天台宗東叡山の

末ふして常院室僧正位の寺也坐像貳尺
九寸五分

惠心僧
都作寶永七年庚寅の歳邦君淨國公廢寺と爰に再造

し願王院僧正智周江州芦浦觀
音寺の像として中興開山と傳し

將軍家の靈牌と安置し冷ふ寛保三年比叡山中玉照院

と魚市次客殿の額を鹿苑院殿の漆筆ふて醫王寶殿乃

四字也初り薩州鶴田大願寺藥師堂よ掲る所云東照

宮乃御廟と毎歳四月十七日諏方大宮司として音楽と

奏せしめ天台宗僧侶とあり祭祀怠ら次

實相院 南泉院殿坊ふして本門乃南よあり本尊阿彌陀

如來立像長貳尺四寸
貳分安阿彌作 寶永七年本寺と再建とるよ及と

野田山内寺の枝院廢寺或々多し移し智周傍心とて同
山堂なし純英法下と任職せしむ

觀樹院 南泉院裏門前より有りて廢坊なりかき阿保院如

立像長三尺七寸
吉合聖德太子作 実如院同所より再造し智周傍心と関

山堂なし圓清法印任職を六れまじ野田山内寺の廢坊

廢寺あり

吉祥院 觀樹院より隣りかき阿保院如來 立像長八尺
二寸春日作野田

山内寺の廢坊廢しうると觀樹院とたより移しく重興を

智周傍心任職良忠法下なり

ノ桓石 府城より西五町許り目附番所より下名越氏宅地山

涯より有り僧ノ桓ノ塚なりノ桓々茶博紹鷗の高弟あり

紹鷗茶道と千利休より傳せしと立腹し我流と立て何

変も左よりとて詮とし茶器と馬より負せくあるまじかり

其馬死しせし馬皮ととて袋と製り茶器と入る自

かより流を背負ひ終り流袋よりくり後摩り来りて

死しと年月洋々なり袋とせしけ所よりけりといひ

傳ふ諺より馬之皮より駄袋或首より掛るといふを是とい

ふより今より堀石を古への石より及んくと舊の石より前

より三束萬靈塔と篆字に彫刻し背の文字湮滅して見え

を村田宗仙經寧數奇屋の庭より置今より傳てあるといふ

り織田主計頭貞置平瀬一鷗の附共もらう茶道正傳集聞
書に曰初のノ貫と書し以鑿師曲直瀬道三のすのめの
よく貫字と桓を改めしを桓冬水偏は旦とかき傍の
一城水偏の中は入る本の字はりり旦字の中は水の字
と入三字を分て見て日本一と読つと去る終るノを
人半分をして人をてをなし不肖日本一とりり卑下の
名ありやとありしぬ

聖堂 府城の南六町余よりり安永二年創建は三月經始
し八月土木の功終る聖像且四配の像と安と廟を南に
向ふ春秋丁日として祭祀となと外はりりと仰高門

とりり仰高の二字と扁を門は入て右は孝舎りり諸生
程朱の學以宗とと左は番所及文庫りり門の向は泮水
池ありと橋と架と門あり入德の二字と扁と中山王尚穆
書は其の門と建門扇は杏檀の二字あり林大學頭信
言書と杏檀門の日即廟也宣成殿三字の扁額と掲伊賀
國主藤堂高教書と

薩州鹿兒島學記

古者先王設為學校也蓋長育人才以待國家他日之用
也其所以為教則五典六德固上行而下効於是乎成人
有德小子有造孝悌修於家而忠順可移於上所謂其教

不肅而成者矣當是時俊人濟々不可勝用也後世學校之設雖或不異乎先王之時人才日卑風俗日下者何哉上之人徒誇壯觀而飾游聲苟應故吏視以為文具其教亦不過乎試詁文詞之間以誘聲名利祿之途則學者往往于時取寵誇多鬪靡是以其詞章雖麗議論雖高其德業莫功之實無以逮乎古人終歸卑污賤陋之域而已夫民彝物則極天罔墜豈有古今人不相及者哉但在上之人所以教之之術何如耳今歲三月薩摩侯創建先聖之廟於本州鹿兒島肖先聖及配位像畫先賢先儒像其餘百爾器備一視諸昌平國學而取法焉於是春秋釋奠之

禮其可以行也又振其餘材為師生之舍以為朝夕教養國之子弟之所歸藩之日使其臣兒玉實門來余信言作文記之此實盛舉固可書以告於後來也故不敢辭敬叙古今人才之污隆由教道使刻石以立廟門內君侯既尊儒崇道固以好古聞則其所以教之之術其又何待余言耶特使國之子弟藏修於此者有觀以考焉則庶幾不負君侯興學之意哉

安永二年夏五月

朝散大夫國子祭酒兼經筵

講官林信言謹撰

演武館 聖堂のうしろより安永三年をいめてとき武

術試練習する所なる又が追物場とて修練成る次

神農堂 聖堂の前より安永二年建之也堂乃有之整字

院と云

明時館 府城の東南中福良より安永八年創建を治曆

乃館なり曆学本藩に傳はりしと云ハ山本正誼記を所

のゆり後記より詳なりとて多しと云うべし

松原山南林寺 武坂本西邸の境にあり曹洞宗福昌寺乃

末よりて開山心嚴良信和尚福昌寺五世應仁二年戊子七月二十一日遷化本

尊釋如來像弘治年中邦君大中公創建して百年後の

菩提寺と定めし人延享元年甲子十月二十三日現住疎

山大珠和尚關三箇寺龍徳寺大中寺総寧寺乃允書と受て常法幢

大城樹冬夏の結制今に至りて懈りなし永平寺圓月和尚

免贖もつて天明三年癸卯正月十一日失火時は再營し

て舊日よ倍し伽藍となすとの歌を月舟兼松原の

三字也宏敏は英傑心兼寺跡の歌と揚ぐ又境内十二景

勝りり位傍萬年和為清成城一寺と細じ

古木の権 山のあまあり大中公御杖なるよし寺傳り

と廻り壺文をえ守初先かつの外にありとて天明年中再營の内門内となら

源舜庵 南林寺の塔頭なり初め勅山東侯那に在り東光
心珊隆寺といふ邦君慈眼公多し移して家老比志為紀
伊守國貞の墓抱ちておし今の寺跡に改む

宗慶寺 南林寺の末よりて初め陽州恒吉宮ヶ原に在り
明和元年南林寺住僧橋州和尚多し移して再興と其比
誅客門曰よ芭蕉塚と建まると

めぐりくつぬるや夜よ露塚

伊勢 春渚

大門口辨天社 安永初年安鎮と例祭六月七日とて十
四日に至り社守當山派山伏野口真如院當社を初め妙
心院君原良那よ安座せり社也

奉納

碓まくちや碓と神勇め

禅枝

山之口地茂堂 松多心の山に在り昔一陽州如法
本帳代の際海中とて網を懸り引揚り左網掛地
茂といふ邦君貫明公為伝し移り本以爲鳥山に
安座と 鳥山と二本松馬場川涯也
地茂をしき今に在り 享保二年十一月今

の地よ遷と

弘魂祠 弘子之法座 武那に屬し弘子の武那
諸尊伊奘丹尊様田 鹽屋那兩屬の地也
彦命例祭五月二日 貞享五年戊辰二月十八日寛陽公勸
請し弘子初め弘子を戸柱格とすり今以曆之年今
乃地よ移と

祭神三座 伊

示現山能学寺 武耶橋の南彦町餘よあり臨濟宗志布志

大慈寺の末宮基建つ祀方重位寛永十九年己卯十二月

建之字心と南的首座 俗姓日置氏性光寺に隱居し元禄十二年己卯七月十四日遷化茶人よて南的の投柄扱

と云々 勸請開山善吉和尚 京都天寧寺四世の住持

本長山正建寺 武耶橋字方の南より法英宗八所

勸請お徳支折州尼ヶ法本興寺あちの末よして字心

蓮花院日尚 元和二年夏三月七日遷化 かな釋迹め末傑初め正法寺と

いふ西田移りわりしと法名の難とおもはれて是安二年

今の地よ遷し寛文年中寺辨とひひ是後曹法院居物

ありありあり

八幡宮 荒田邨よ鎮座祭神三座 玉依姫應神天皇神功皇后正祭九月廿三日

勸請年登久遠よして洋ありは建久八年薩摩國

圖田帳に大隅正八幡宮神領所記荒田庄八十町と

記を荒田邨を正八幡神領の由に記法と刀之あり正

祭よ八意田の濱に神輿渡教下りありと神樂と奏を

神樂ハ横笛大鼓調拍子よて拍子とまらぬたると

あれよりハト神樂といふありみふはし目し 又三年よ

一家春の彼岸神輿と守に神樂と奏し意田邨の境

と巡り四所の隨神 東隨神鹽屋邨境南隨神中村境西隨神田上邨境北隨神武村境各安

鎮に神輿と居る是は八幡境廻りといふ古昔荒田邨

社傳の故事なりや社司中馬氏別あり福徳院

松尾清 荒田邸の海邊より小松氏別荘の名を帯
刀平清香眺望十二の品類と撰し初秋とゆるる友
二階堂此の書所は撰へしき日野資枝の書と見
ぬひてみるゝ 初秋の地を自ら書して行
ふ賜ふ今小松氏と菊並と

小松の亭主十二系伝

特進資枝

高隈朝霞

立万ふふのりありうぬくたうくふれ
八割のありくとわがむじり戸い

櫻島春月

信うあひのこくはるはくらくらま
よをくく花のく新もあそゆ

荒田蛙聲

あはらう世すけちもうう海一水草生は
あう田中くれくかたたあくく

燃崎白雨

り冬うたのなはあそあうらうらぬ
風もうさうそくをくふ夕あ

境川千島

うらひのこころをさぐらばゆふのあまはく
海のちしりえぬやうな春

閑聞暮雪

名もたはゆきとやまをひきしりきり
うらひのみゆりたきにいあひぬ

洲崎浮鷗

うらひのこころをさぐらばゆふのあまはく
あきうらひぬりちしりきり

隣邸夕照

夕暮ちしりきりあきうらひぬりちしりきり

てらふらぬりり乃むらぬはゆき

青屋晴嵐

松きりりたあをやれはゆきのゆあわ
うらひぬりちしりきりあきうらひぬりちしりきり

松原勉鐘

あきうらひぬりちしりきりあきうらひぬりちしりきり
あきうらひぬりちしりきりあきうらひぬりちしりきり

輕沙漁火

あきうらひぬりちしりきりあきうらひぬりちしりきり
あきうらひぬりちしりきりあきうらひぬりちしりきり

遠帆連波

下帆川の中いそくく少中をりふくせ
凡くいづくのみふといてあふ

一條宮

府城の自劾本郎よ

里信本の字と元は他る是
久の必田懐良字の言は

皆かの字
と用也

法隆寺神宮殿類桂屋中神社は同一例祭九月

九日勸清年歴洋りなり次建久八年薩摩國島田懐良

社七町み辰と凡く一をある社なる也一初め一之云と稱

と神祇管原卜部兼連薩州の一之云は紛はり記とて

一條文と改む今も正月洋りあり別名定命院と大乗

院坊中定命院の末也

昔屋松原

郡本村の海多よりと觀應年中邦義道鑑公谷

山部平忠ると流賊せんとて谷の波平と陣と信の信

一忠ると美米と信くう一陣と牛落と構へて身社玄

法師として信信とあり一の道法と雲と難儀よみひ

町と和泉右馬

薩州の信信とあり
今の法津國傳也

信信り池て信信

よ信んとてとてとて道法自由ありとて一に従軍として信

杉原よ苗の只一騎進て陣下の信信とありとて信

已て曰和泉右馬信信對忠忠信の軍陣の加勢として進

後とい陣よと社玄法師信信の中へりてとて信

信といました對面也と今日見參せん一騎よ陣門の

かよひらむ紙の汁とひひあはれ祐玄たぢり事か
一跡おきて曰思ふるに今日の参會と興おくるにあはる
くを敢て太刀打の合戦して以討は後と一か
迷ふ引組んで猪首と決を懸しとる忠志も亦我好
じ所の猪首也とてまの響となり引組んで五馬の
間よりあはる忠志を隠るる大り引組のこなる次
祐玄の頭とぬるはいつはあはる陣中の常士と松
原の從軍と回付とを火死と散らし我は祐玄の
士率收小して我死せうもの散るはあはる
忠志は平沖陣に到り公は拜湯と忠志の名譽を感せ
るものあしとる

牛落 郡本郎は屬を谷山祐玄法師の陣所也牛かけも
いなり

紫原牛落は引渡さし那由天文八年二月十日邦表
大中公出馬しあひ逆臣討つべし久遠の徒と誅戮
しあはる我場なり

唐渚 中郎は在りけり一へ入海して唐土の人
と繫しし事法と呼といひはる今海濱に距る事と
遠し又辨財天社を重んずる建之なりと傳へる事
の服は破捨也とてよりむし唐人破捨捨しといふ

廻り僅よ九万とかなは海さこと云尺牘之わらんと凡そ
己之世より國初以來の事も其何の世也といふこと傳り
次天地の片言評言となりは宿陵となりの理わられた
さもあるといふんが実存究のわらうとく姑く古人の況
とあるとよきわ

元持山壽國寺 武邨より城別字治禪宗芙蓉山萬福寺

の末より一か寺釈迦坐像去玄宗地後院了性寺と多し梅未寺

し享保十四年己酉八月淨國公僧玄黙は州赤根の産て鐵梅和尚弟子

寶曆九年己卯十月二日德之島ニ死スよ命して再興し芙蓉山改め元持

山壽國寺と號し隱元禪師寛文十三年癸丑四月三日寂ととく開山

よ初傳と傳つよ第一宮天王殿よ梅檀林佛殿よ獅子窟
也扁と地茲院初の西田邨鼻取地茲安堂の地よ在り

野が原 武村よりと邦老齡岳公の内宮方大將畠山治部

太輔國長文和三年九月鹿兒島よ来り公よ討して合戦

とと我場今この地とある舊記と抄りよ當に惟たか

治本の沙島とて始り圓一揆の辨山北和泉是と圓長の

よと屬して大軍とあり野かのあり陣幕と傳り守後

方と傳といふも日く野伏と出して合戦と討つ畠山方

と一人出て曰形り及ひあつは陣幕沙の山田平九郎

爲り了ん参せん我是禮部方多田七郎と云とのなりと伝

九郎も海を渡る武若守人ありの太刀は身指と持てか
く礼の敵に袖笠取とりけりてとにこれくゆまは田畝
のりよ此今に敵長刀と振ると太刀よなるを切く掛る
九郎もさと指のことも切らせ踏まて小薙敵ハ長刀を
ハ派たけり曹の志甲吹き上掛てそ切よものいふも
若らぬ勇士の戒ひ精神ゆきかりりて已組と見え
つものよ派たけり味方池邊に打ちあつたものとあ
は喚りけりて後より軍兵もとせけり者方上引退り
お川をたけりしものと派たけりハ再いとの戒場よま
つり多田の神衣切落しハ身指と取て太刀の切せり書き

是日如く今日の勝負の事と喚りり内とけくれと
味方ハ是れ敵も派たけり振舞の花屋なるを廢
築しけりとも今ハ野平のあつ陣取わりのと又之重
尾砂のともも陣取りて其傍に澄懸松とて古本にあり
ハ天明年中枯て今ハかゝり又陣取の南川城茶臼り陣
郡本村
は屬と
ありきけり内陣の陣取りたるあり

青木の杜 武邸地の中よあり野中今我の内頭塚ふ
るともいふ今櫻と樹あり

大田大の神 武邸の産土神例祭九月十九日祭神未詳

つなり次

寶藏山笑岳寺

野本より西田邸に屬す

西田邸ハ永吉

大島

曹洞宗伊集院梅岳寺の末宗山月盛吞撮和尚

梅岳寺七

世本尊正觀音像生像永祿十二年己巳十一月伊集院大和守

寺法名笑岳道觀忌朗入道孤舟法名笑岳道觀創建也

醫王山藥王寺

笑岳寺左に隣る福昌寺の末として

大森傳索和尚

福昌寺二十二世定文元年

初平立像長貳尺貳寸古佛初平立像長貳尺貳寸古佛在り

立像長貳尺貳寸古佛

初平立像長貳尺貳寸古佛在り

立像長貳尺貳寸古佛

萬治元年二月

寛文九年立像長貳尺貳寸古佛寛陽公立像長貳尺貳寸古佛醫王山

金胎山了性寺

西田邸に在り

真言宗大乗院の末万治二

年父秀房良盛坐像共一五尺基として

坐像共一五尺

近作法守天海坐像共一五尺と進信輔公坐像共一五尺下任後邸に

初平坐像共一五尺と遷し

伏常光院なるもの文の例に

いへる恭徳公は

千代やぬる神の志め

婦のきめくみの絶えぬ

福永門八景

西田邸に在り

宝曆九己卯の歳宮之原秋山

和助員として

あゝと戀む杖心の孫通車とと車師と携へる逢宰相表

長つと初方を清くあはれつ題毎一首と詠一題目

と初彼雨之細のら八系歌左り又記と水上暗嵐水上西田村

在り府城と距ること一里よりて近し出水筋へ通る街道

なり坂あり水と坂といふ坂の麓に清泉ありよけて水

上と常盤谷夜雨常盤谷水上の東教町に在り初め枯木

呼ぶ常盤谷夜雨迫といふ大玄公の時の下は別館と

並みい名と常盤谷と改つら別館の遺新上橋夕照上

証今あるに存せり比志島氏別荘となる

指西田郡和築地歸帆築地坂市付の所原にあり神宮

泉崎に在り辨財天社のところあり野元

築地といふ福永門と東了性寺魁鐘了性寺前

一里餘はるこれ眺をふり尾畔落雁尾畔は西田村原良村の堺

秋月野本原といふ尾畔落雁尾畔は西田村原良村の堺

多し山涯に別館に在りなげ櫻島暮雪杉原にあり

後の尾畔條下に詳つたを

やま凡乃ぬくしゆりせしめ水とを

水上暗嵐

はうくきり福をうきおもれき

常盤谷夜雨

常盤谷夜雨

常盤谷夜雨

常盤谷夜雨

新上橋夕照

新上橋夕照

新上橋夕照

新上橋夕照

六久不祓もは海を風よるをせけ
おろふ方とて 藝伎をそよら

了性寺晚鐘

けこら此家ゆもか時も志いりて
けこらこいりく入おの鐘

野元秋月

空多アもけいひをしてあひあ
野元此あきの月忠光を

尾畔落雁

幾いりかすささりけくおんそそ

尾畔ろ 落る あきの雁り祓

櫻島暮雪

梅しゆむこくはわけて落雪ハ
ちりこふ花のけけの舞

山王神社 西田邸に法座祭神廿一座 大己貴命 八千戈神 大國主命 大國玉神

大物主神 頭國王神 葦原醜男 同跡異名 正祭十一月 初申 本社近江國滋賀郡坂元日

吉社 神社考云 初め叡山に勸請 又中山に 勸請 後坂元に 勸請 故に上七社 中七社 下七社と合て廿一社と云ふ

勸請年 月 洋のり 次社司中馬氏

谷峰城跡 山王社の上山を道鑑公の時曆應四年五月

廿三日夜山徒等けい集りて上城ときりやう屋死よ

しきとへあつて公とて城に馳向ひぬふいと舊紀よ

谷久へあつて山王社の北に

日吉山浄妙院西田寺 西田村山王社の東に在り天台宗

隅州國介彌勒院の末よりしてむる觀世音中興宇山憲英

は平初の日洲飯野妙泉庵長善寺末寺荒廢せしと延享二年

命よりしてまゝに再建し山王社の別ありありの改

郷ありしと云ふ

鼻取地藏 西田村山王社の北茶園迫に在り安永の年曆

併りなる古佛也坐像長七寸余むうし西田邸江月門の

農夫乃よけ地藏と仰し朝夕香花を白く急らさ

於このまゝ或時出て田畑を記せり牛ありてい

ひふ象うてともありと見物も漸く傾きて村長

の遺責大なるありとを力りとするとの名民助也

乃よとあつたよありはせんかきく憂ひ居也

るふ小僧一人いけくありと云ふと昔より農夫よ

句ひりあやうぬ牛けりれぬを我鼻取りてえさ

せじとて牛の鼻つくと云ふふ牛とてむこをなす

アをむとてやうなをぬれぬ袖うく田とて記すハ

ぬ農夫懐しく思ひ沙身いっあつ人よといつきの

沙寺に相もをといつハ小僧完尔と云うら笑ひて

去りて農夫ハありて油り毎の如く地爲菩薩ニ治
りたるに菩薩の脛泥土ニ汚れてる事あり農夫奇
知りていひてくさる知りありや地もくさる里俗鼻
取地然の名を呼いけり」といふ

諏方神社

西田邨窪田ニ鎮座祭神二座

建御名方命
事代主命祭

八月二
十八日

伊集院右衛門大丈忠棟幸侃建立也社の左弓

塲地跡あり

萩原天神

天神馬塲ニ法座西田邨ニ屬を本社筑前

宰府例祭八月廿五日昔し武邨萩原門の農夫他列

とありたり女をとりて祭るハいけりと

神傳と傳つて祭るの規式始つと今も志うらん

能満山所願院 柿本寺 西田邨ニ在り真言宗大衆院

の末宗加世田佛眼院典雄法印

和四年戊午四月十二日 遷化

本尊虚

空藏菩薩

日秀上人 一ノ三禮
作日新公御持尊

當寺ハ邦君慈眼公府城

の西南ニ一院と建て因宗安法の新法となすと傳ふ

よし命よして典雄建立と

太平山大徳寺 柿本寺の西隣和泉宮ニ在り曹洞宗福昌

寺の末よして宗基実家妙惠大師邦君大岳
公御嫡女本尊地藏菩

薩坐像初の千佛寺とよみ尼寺よて淨光師のつとむる

妙惠名塔今よ
旧寺地よわり

いけの比迄一ありと傳ふと福昌

二十世大禪全索和尚

慶長十二年福昌退院
翌年九月朔日遷化

と号しとがし

福昌末となりけし所今の地と稱し尾毛と稱し

ありとや

久富貴宮社

西田村新照院之法座を築くは日蓮の法

ありと西氏宗基にして初めと西村とあり慶長元年

年乙卯九月日邦君大中公南社を建てた尾社の

別名と云ふ社ありと云ふ

重寶山上山寺

久富末の末の末に在り曹洞宗福昌末の末

ありと西氏宗基にして初めと西村とあり慶長元年

今の地と稱し尾毛と稱しと云ふの地と稱し尾毛と稱し

ひよとてありと

新照院観音

と云ふ脇の末の末に在り慶長十八年

七月廿四日西田村の田拾石と稱しと云ふ

と云ふの地と云ふ

尾毛

西田村西田村の地と在りとの尾毛ありて田畠

の地と稱しと云ふの地と云ふと云ふ

と云ふの地と云ふと云ふ

と云ふの地と云ふと云ふ

と云ふの地と云ふと云ふ

かき残のいとまをゆきとるころの枝くたさ
日記て櫻樹多し春花の比ハ四方の梢も白州
花見の群集を枝とえりり方新緑と庵あてと足
とやふし花よみのうらゆる時とさゆく川水の流れ
よ花よふ黄火ハ夏山の木の下の雲を照す
ひさし河の
別館の小枝百歩の山涯山王社あり
良村の生土神をそとりし社の前ハ川
とて別館の前よおつけ色の黄ハ地ハこと
よおほいふれい去俗山王とそといひ伝ふ 秋ハ木々の
紅葉の海とさらしし冬の枝はくあるのむら田圃
よありあそく物戸かの池のを里の小野小野村ハ別館
の少拾枝町
この邸竹書りかろ枝の庵と烟立おひくも又
かきこらとこのよゆるといふ

近衛櫻 原良村の口流津美濃久彌別墅の庭に在り老

木の糸橋なる木廻り七尺八寸余枝のさつへ
東西十一間余南北十三間余 梢の高

き枝丈枝あれて地はゆる何れの歳も栽しと待

つり次近衛殿下庭栽の花同程ありといふと

て里信をとを橋と叫ひ傳ふ

隆盛院 享年田村に在り曹洞宗福昌寺の末として

山佛智法照禪師天祐宗律和尚福昌寺十一世天文元年壬辰
二月四日遷化石塔あり

かきこら坐像なるを安室公の宮子奉よして袖の今の

府城の地に在り龍盛院と號し邦昌興岳公の菩提

寺とかなをきき七年多し梅一坊字と隆字と改む
といひ侍ふ

原羅陣跡 永吉村に在り 永吉村を永吉の村として永吉
の所屬を我藩今の二つといふ

いふへの前後の中といふを永吉郡の郷といふ
別ありぬのゆゑに地味はゆるのゆゑに記す 畠山

河部大捕虫取文和三年野中の畠と陣一あり村

いふと島と昔の跡をなると又徳永十年十二月伊集院

淳正少將教久け吉墨と陣一邦君義天公と寇賊

ありと公出馬一ありあるの田よりとせりて今我一教久

と園にゆふ教久院と自教と云々一と公の執事蒲生

弟廣重の法寛吉口より梅も法正和治とよと教久命と助

りる

岩崎陣跡 小野村に在り伊集院教久送会の時陣に

ありと

聖之宮 小野村烏帽子形と安法と 小野村ハ永吉の村
して神兒治と屬と

園田氏宅地ありと祭神澤、ら次例祭十一月廿一日

同社と稻と安と 稲前ハ園田の氏神あり聖之宮ハ
貞永十二年八月邦君義天公当地

と園田は賜はらぬにち
安法とてといひ侍ふ 治津実久送会して大中と

社ありんとありと園田法正の實の謀計よとて公と社

中と隠しありと神と神と急難と遁走ありあり

ありと邦君世々崇敬厚く数回参詣一あり今の日

あまの社の大玄公再興とし

宇治瀬神社 府城の西北草牟田邸に法座祭神一座和

都美字例祭二月十八日 勸請年月詳くあり次初め社山の

巔に安法ありしと云ふに近しありとしひゆふ神跡

と二月より宇治敷と稱し十月より宇津佐と稱しと

いり性古より麻呂地と神として二月朔日より

神々の祀場中と稱し地味ありと稱しと云ふと傳は

しよ水意曰年二月神祇管領下部知信忠記に法

い寛字ありしといり地味ありと稱しと云ふと故あり

よやとゆゆ洋ありと云ふに貞観二年三月二

十日庚午薩摩國從五位下鹿兒島神授從五位上云云即
當社ありと云ふ

四郎の坂 坂本村に屬し伊集院教久道玄の討敵也

十二月十二日川田行徳と義尹谷山の兵と戦ひあり

と頼久の屬日重肥前守國守孫之郎町田去傳と直久

と斬獲と

伊敷之墨 下伊敷邸に在り妙谷寺後の山あり旧記云上

古伴大監兼行薩州の守護とありとて麻呂地神食村西

町の坊に築居居と傳授御館といふ神食今のこと伊

源伊敷と伊企色と此ら後又畧して伊敷と云ふ川
の流は是れ伊村より分て上伊敷下伊敷といふ 兼行

三世薩摩守兼貞六十六代後一條帝長元九年九月隅刈
肝付院と賜り高山に移るに後伊敷氏より居候と義天
公の内を伊敷沙弥郎忠純長谷場六郎久純二男に墨と守札と見
し多し

免照山妙谷寺 下伊敷村に在り曹洞宗福昌寺の末よし

て字心柱山守棟和尚福昌寺九世文明八年丙申九月二十九日逝年三十三本尊

釈迦如来坐像長二尺五寸七条大佛師法印康任作初め上伊敷邸今の不動

院の地は在り邦君貫明公爰に移り再建して没

後のちとなすと永福十二年十月十日旨白く為赤生糸

鹽屋壹間と寄附し給ふ

年之文 下伊敷村に法隆寺城乃成方壹里五町許に妙

谷寺山のお越かり祭社徳野十二所持現稻原乃公

水天と會象と小鷹大明神と辨と近衛信輔公歳暮

参籠しけ社日よあわて年とひり魚釣ひりし年之

文とひりしとて之代実証貞觀二年二月廿日薩摩

國正六位上伴企色社從五位下と授りけりこと見ふ事と

多社なるを社司兼田主馬

春日神社 年之文の西去に町修し法隆寺社宇建建甕権

余天兒屋根余姬太神多社を近衛伯輔公勸請也文福

正祭十一月廿八日深筆の之拾六社社頭と奉納し給

元月十日慶長
元年七月凶洛

寛陽公の神社殿摩壞せし以て改修を命ぜられたり細りし
正徳四年甲午二月津田公見よ公室に收りし百足と進
細りし所の相官前田某銀幣一振と製り寶殿
又結念と
又細りし居基方世の重記銘と鐫む

建てて智慧光院と号し別ありとなす
捷襲々智慧光
是也今別あり

春日社の下に進清公廟ありとあり元一及傳
福留門
と云農

夫居坊津とありありひて淹留の所と見えあり

信輔

山たりし見おろすと谷のあぐよ
ともといひりや 夢さゆらん

天満宮 春日社の西三町許り田間より進清公輔公勸
請し給ふ神體を公の自筆天神の名號也社殿荒廢

せし河神體と西田村了性より遷し社以て遷すと故

よ本像と安と 例祭十一月
廿七日

不動堂 上住家邸不動院ゆき在り福昌寺十一世天祐

和尚建立して自他の像と安とを後火災より罹

り妙谷寺三世喜冠和尚又彫刻してけきよありと

靈佛ありて毎月二十八日参詣多し正和六年三月

寄附と所所の撞鐘あり今妙谷寺より掛ちとりけ

鐘銘より元正和六年を文徳元年よりして花園帝の

年号なるを天祐初為りありと不動堂ありし小

天祐自作の像と安とを再興してありとあり

不動院を衣冠和為字基ありて妙法を承るる

桂庵和尚墓 上信友村梅之淵乃と東叡庵の舊地在
己今僧御庵といひ桂庵ハ程朱の号と本庵よ
信ハ一信ありと墓銘に正興二十九世前南禪桂庵
玄樹大和尚禪師墓永正五戊辰年六月十五日寂世壽八
十二歳東歸庵字のこに記と樹庵初月防山口の
人九歳ありて洛陽南禪ありて登りて嘉吉二年壬戌
の冬十六歳して小僧の戒壇に登り東に惟正和尚東
福景召和尚に從ひ儒學と号ひ四書新注といふ義と
聞こと熟せり

惟正景召二老ハ時の名祐ありて一日岐
儒學と不二院岐陽和尚に受云云

陽和尚勅と奉りて明國に使僧と撰ふ岐陽其人と
指とあつとありと五山名聞の僧八十餘人と南禪寺
の集の試は大梅梅子四字の題と出り磬一色と詩と
作りし桂庵其頌云大梅梅子鐵團々八十餘人難下
嘴今日當機百雜碎那邊一核其他看とありとありて
勅と桂庵は下り明國に海より來りて嘉吉元年に
十一歳の時也 明憲宗成化三年あり 蕪抗の号と遊歴して儒學
と号ひ義理孤精と七年と歷て文治五年に河内藤原坊
津に著和洛陽と赴んとすは天下大に亂れて行路
かたしして高き居位とありと年ありと邦君圓室公桂

庵の儒学あり多と聴ゆひ亦以爲之野とちと建て桂
 樹院と號し屋らしし時とゆひ城と一二三山千萬峰浸
 空積水暮光濃島陰絶景債誰西浦々烟枯舟入松或説は
の時鹿兒島は屋らしむと云誤あり立後日州鉄肥安
野々堀之内馬場弓場の跡といひ傳ふ
 國寺は住し又隅州因分正興寺は住を再ひ亦以爲之来
 こと伊波那は彦と法ひ東波彦と號と次は多と寂と
 著と西の島陰漁唱島陰雜著世は傳ふ墓上は大方る
 杉樹ありとしは枯て株根僅は存し其所と泯没と也
 享保七年壬寅十一月十日石塔と建之と程朱の号
 流安國寺月渚和尚は傳ふ月渚之と竜元寺竜元寺は日
 州市未小在り

二州和爲は傳ふ二州之と大新と文之和爲は傳ふ文之
 心人多し如竹上人は家とゆふ也如竹を隅州居る傳ふ
 傳ふは住を心人形中茲春はつと醫と業とを日州志布
 志の人海部以爲は居位は

比志島城趾 比志島村は日置郡満家府

城子方三里拾八町許に滿家上總介重賢入道法橋榮尊
 以來子孫代々屋住と系は志田三郎左衛門尉頼重の
 子かて教重信州の守護人小て志
 流の弟となす彦州は下句せし加へ比志島村は並所は
 加へ比志島村は並所は並家流郡司孫を以承平の嫡女
 として妻とかし系は生ととそののち教重教光とゆ
 て佐州はゆふ系は承平の流りと文ては家流とゆ

高城城趾 小山田村は日置郡満家府城

成方元三里建武年中小山田義久郎兼範 比志為孫

二 男 房後一伐く何と今を山林となす舊記云小山田

と何處を是なり之後申方又大迫の野首らるる

廿一年五月二日凶徒信集院頼久の軍勢を破る押寄

一内城之小山田信久と絶絶一族出羽吉義村法遠等

久清以下野首をかくる合戦敵味方より討死を救

多し

平城 古後の言子方志町修之阿里小山田氏の族出礼

と守其城址又諏方祠あり勸清年紀詳くあり

小山田瀑布 平城の北に在りも原を郡山郡の山中に

出て南に少くあり瀑布なりと言ふ元八乃之尺横

狭く水皆流一古俗を成陽瀧と云或人布川の流

と名けくといへば流の左右古藤多し又平城の南

に陰瀧とて僅く言ふ之乃許りあり花泉のりといふ

夏ハ田地に注ぐ

寶池山満江院安養寺 平城の成方方に在り時衆宗相州

藤澤山の末として安ん其向 和集院竜泉寺二世貞治 本

尊阿彌陀如来 立像運慶作 川田伊豫守義尹 法名慶阿 建立

吉田 吉田郷ハ舊大隅州始羅郡あり一と文禄中細川

玄吉殿下秀吉の命と蒙り吉藩と檢地せり礼

松尾城跡

佐多之浦邸子在

佐多之浦村ハ東西と分てけ色と東化西浦村と

吉田氏初て築城代々居城とす吉田本城

吉田

吉田氏系圖并旧記と按とらる吉田院を往古三位大藏行忠の所知とて天仁三年正月十九日正

八幡の執印行賢之と買ねて祓儀となし源為重と譲る

乃重又之と分孫息長清通とつら清通の子吉清建久八

年七月右大将家の不知と交て 永正十四年二月十二日

吉田院と安か一代く侍候と 邦君隆盛公出るとしゆひ侍と改ら侍同十四日吉田

氏小城同十七日

地以能屋

松尾城跡遊子に東六町許りより地以の

御之漁舎の右大将源頼朝公御歌よ歌を遊討しゆひ其

勸賞よ日本六十余州總追捕使よ補せらるる國々

守護と並初郷々地以と居へり礼とあとも承久記

よふくあり

東鑑よ総追捕使と

祭地頭職と記せり 邦君得佛公を右大将

家の庶長子とて文治二年の春八歳よならせゆひ内

薩隅日三列守護職に封せられ後下向しゆひ

吾藩之一郷一邑の地以と定免又州初郷邸よ明と

くは唐校よとて方派とらる來の外城と稱し一城と構

へく地以と並と色境と守り

神皇正統記後鳥羽院の条下と諸

國よ守護とあきて國司の威とねさへしりは吏務と云

更も名とかりよかりぬらうちる唐國郷保と地頭と初 自爾以來一郡一邑よ地頭と余

一漁舎の逃風となしゆり一廣長某天下恭平
屬一地元の人々もか府神田所より所位とあるし
り且一國の一城と云ふ大家の舎ありとあるハ城郭
ハ皆毀之れ城之役あり建是と地頭假屋と稱一邑
長出席とある事となし他別とて初代代官等の位不
と陣屋と云ふ事同一地元の假屋と建つ所とあり
禁と云ふ城の府をわたり麻呂島と云ふ府とい
つらみ一建久八年後唐國常田帳府と云ふ
世の城の名と来郷と云ふ處り古昔定まらぬ
郷の郷といふ事なるを假屋と云ふ事あり

後元地頭假屋

と云ふもの
おれよからへ

正一位正八幡宮

本名耶々法所地元の假屋と距るあり

未申方を里指三町所祭神五座

中より吉田美作守清
存左右應神天皇神

功皇后玉依姫仁徳天皇

祭二月八日十一月八日

按と云ふに

吉田城主若狭守

位法方美作法存と不和して位法方と約さ

んと云ふ文和四年二月十日法存自殺

墳墓八幡宮
の下より

後法存の怨霊と檢況と崇め祭り又延祚神切玉

依仁法之神と會祭して若狭八幡と神勅法年月

洋つたるに永福九年三月八日神道管領長と下部

朝臣兼右宗源宣旨と奉祀し正一位正八幡と神位と校

第一郷の宗廟となすと大中公の孫邦君の崇敬厚く太
刀吉井腹巻を奇進し砂のり不多かりしと云ふ
ありと近きあり島津左衛門督歳久の像を有社を安
して参る歳久は吉田の修したれハあり社司は左
某

山東光寺寶勝院 東代は浦村に在り松尾城進自
口也地は仮屋と距るありと西方六町余ある宗大乗院
の末ふして字心林椿法師近化年月傳つと本尊如意輪觀音
坐像初り吉田氏字基よして永年中吉田亡り後荒
廢せしと云津左衛門督歳久吉田城と領しあり内

再興し忠譽法印とあり中興とあり後まゝ廢し及
ひと盛衰は不詳なりと郷中の祈禱道場とあり
宗廟正一位八幡宮の別當殿とあり

佛智山津友寺 佐多之浦村に在り佐多之浦村ハ東西と
分てけを西代あり

地以假屋成方拾壹町余曹洞宗福昌寺の末よし
て字心竹居正猷和尚福昌寺
二世かま文殊菩薩坐像ありと

永二十年冬己の歲創建して安寧山了心寺と号し月峰
了心大禪伯了心ハ吉田若狹守息長清正法名ありの菩
提寺となすと云後吉田が狭智位法王命とあり左
田城とある邦君蘭窓公自らと号し卒し此為しあり

正保十二年八月廿六日率一河守と公の二弟
興岳公はあて吉田城と責めし位法城と降りて吉
田と城とあてよおめて了心寺として先王の菩提
寺とあて山と佛智と辨一寺の名と津友と改め牌と
安し石塔と建て田四百余石としてちんとして文禄中
豊臣殿下命して毀破せし後

清秀山興化寺 西に西海郡に在り津友の卯辰方多

地以修金成方八町余臨濟宗關山派日州志布志大慈

寺の末心して秀山明谷和尚 長祿二年戊寅四月二十四日遷化 本尊釈迦

坐 初め吉田美作守清存 文和元年壬辰三月廿五日 白殺法名了潭居士 の菩提

提寺となして建立し清秀山了潭寺と辨とを後
邦君興岳公の牌と安重して興化齡岳禪寺と改号
と今齡岳の二字と畧して興化寺と云

共
十